

## 山口県支部

### 山口県中小企業のベトナム進出可能性評価

#### 1. ベトナムの経済事情

##### (1) 日系企業の投資傾向

日系企業のベトナムへの投資件数と認可額については、2006年が146件・1,056億ドル、2007年が154件・965億ドルとなっている。2003年には53件・100億ドルであったので、ここ数年の増加には目を見張るところがある。

日系企業の進出パターンの特徴は、100%独資の輸出加工型が大半であり、北部にはキャノン、ブラザーなど、南部には富士通などの工場が進出している。内需を狙う企業進出としては、北部にホンダ、トヨタなどが合弁で、南部に味の素、久光、ヤクルトなどが進出を行っている。

ホーチミン日本商工会加盟企業数は、2008年5月時点で413社となっている。業種別には、製造業が206社と多いが、近年は第3次産業分野の進出が著しいということである。

##### (2) ベトナム投資のメリットと課題

ベトナム直接投資のメリットは、安くて勤勉な労働力を豊富に確保できることが大きい。JETRO提供の資料によると、ベトナム主要都市のワーカームン額賃金水準はハノイ79（最低賃金63）、ホーチミン142（同63）、ダナン66（同50）であり、広州192（同108）、インドネシア224（同103）、マレーシア193、タイ297（同129）などと比較しても安価である（なお、単位はUS\$）。

また、人口の約80%が40歳以下の若い世代であり、人口も8,500万人と多いことから、将来は有望な市場としても考えられる。

#### 2. 海外進出のポイント

各社が共通して語るのは、人材不足である。岡本鉄工では、工場を中心人物に日本語を勉強させ、直接社長が教育指導した。従業員の定着も頭の痛い課題である。協伸ベトナムの光永社長は、現地で素早い対応をするためには、現地のマネージャーを育成し現地に権限移譲することが重要と指摘している。また、山陽三共有機では、ベトナム企業と組むことは文化や習慣の違いからトラブルがあったものの、フランス系の企業と組むことで商談がスムーズに進むようになったとのことであった。

また、JETRO・ホーチミン事務所を訪問し、海外投資アドバイザーの中西宏太氏によると、部品や材料の現地調達が困難な反面、安くて勤勉な労働力を豊富に確保できるメリットが大きい。また、有望市場でもある。

ベトナム投資のポイントとして、以下の3点のアドバイスを受けた。

第一に、経済構造の急速な変化を見逃さない

第二に、進出形態や進出地域をよく検討する

第三に、ベトナムの人材の新たな活用策の検討

我々、中小企業診断士としても、投資の採算性ととも、現地のリスク分析や人材育成に関しても進出企業の規模や業種に応じた的確なアドバイスができるよう、さらなる研鑽を積む必要がある。